

「おうちで透析」プロジェクト推進の一環として  
日本透析医学会学術集会・総会において2テーマを口演にて発表

「最後まで安らかに家で過ごす腎代替療法を考える」 6月17日  
「在宅診療での腹膜透析患者の腹膜炎治療経験」 6月18日

医療情報提供サービスを運営する一般社団法人リンクア（所在地：東京都目黒区、代表理事：市川 匠、以下：リンクア）は、「おうちで透析」プロジェクト推進の一環として、同プロジェクトのメンバーが第68回日本透析医学会学術集会・総会において、二つのテーマを口演にて発表します。

■「おうちで透析」とは、患者と家族が「治療方法を選べる環境づくり」を構築するプロジェクト

「おうちで透析」は、自宅や職場、出張先、旅行先など「生活の場」で行うことのできる透析治療について、「腹膜透析」を選択肢の一つとして“選べる環境づくり”に取り組み、情報提供を行うプロジェクトです。<https://fukumakutouseki.com/>

当プロジェクト推進の一環として、次のとおり、第68回日本透析医学会学術集会・総会において口演にて発表します。

<第68回日本透析医学会学術集会・総会> <http://www.congre.co.jp/jsdt2023/index.html>

・内容：2023年6月17日（土）10:24-11:12「最後まで安らかに家で過ごす腎代替療法を考える」

（医）明洋会柴垣医院在宅診療部 ○樋口千恵子，柴垣圭吾

2023年6月18日（日）10:24-11:12「在宅診療での腹膜透析患者の腹膜炎治療経験」

（医）社団明洋会柴垣医院自由が丘在宅診療部 ○宮田 聡，山内恵美子，樋口千恵子，柴垣圭吾

※発表内容は、後日、「おうちで透析」のウェブサイトで公開します。

<https://fukumakutouseki.com/>



## ■医療機関での「血液透析」97%、在宅の「腹膜透析」治療者数は全体のわずか3.0%

透析とは、「慢性腎臓病（CKD）」が進行した末期腎不全の段階から行われる腎代替療法です。透析治療には、「血液透析」と「腹膜透析」の2種類があります。

日本の透析患者総数は34万9,700人で、医療機関で行う「血液透析」が97%を占めています。一方、「腹膜透析」治療者数は1万501人と全体のわずか3.0%です（参考文献：2021年、日本透析医学会統計調査報告書）。

このような状況において、厚生労働省の2018年診療報酬改定により、適切な腎代替療法の推進が掲げられ、「腹膜透析」など様々な選択肢があると説明することを要件化されました。

	血液透析 (HD)	腹膜透析 (PD)	併用療法 (PD/HD)
治療場所	医療機関	自宅、職場など	医療機関、自宅、職場など
通院回数	週3回	月1~2回	週1回
実施回数	週3回	ほぼ毎日	PD：週5回程度 HD：週1回
治療にとられる時間	4時間 / 週3回	CAPD：1日4回 各30分 / 毎回 or APD：1日1回 数時間 / 毎日	CAPD：(注排液) 各30分 / 週5回 or APD：1日1回 数時間 × 週5回 HD：4時間 / 週1回
手術	シャント作成術	カテーテル挿入術	両方
透析実施者	医療機関スタッフ	患者、家族、訪問看護師	PD：患者、家族、 訪問看護師 HD：医療機関スタッフ
残存腎機能保護効果	効果が少ない	効果あり	効果あり
心血管への負担	大きい	小さい	小さい
合併症の可能性	シャントトラブル (閉塞、狭窄、出血、穿刺痛) 心筋梗塞、脳梗塞	腹膜炎、 カテーテル出口部感染、 被嚢性腹膜硬化症	両方

透析治療の3療法

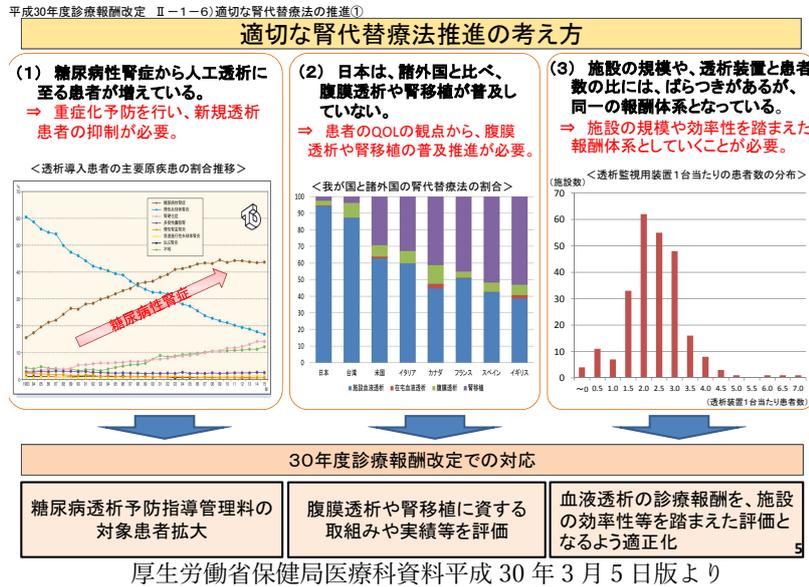
「腹膜透析」は、患者の生活スタイルに合わせた治療法であり、自宅や会社などで、自身または介助者の支援を受けて行うことが可能です。通院回数は、「血液透析」の週2~3回と比べ、月1~2回と少ないうえ、残存腎機能を生かした治療法です。

## ■透析患者の平均年齢71歳と高齢化、終末期医療に「腹膜透析」導入施設の拡充を目指します

国立循環器病研究センターの情報によると、日本では2011年時点で、成人人口の約13%、1,330万人が透析治療の予備軍となる「慢性腎臓病（CKD）」患者と推定されています。また、2021年、日本透析

医学会統計調査によると、日本の透析患者の平均年齢は 69.67 歳であり、新たに透析治療を導入した患者（40,511 人）の平均年齢は 71.09 歳と高齢化が進んでいます。

厚生労働省は 2018 年に、日本は諸外国と比べて「腹膜透析」や肝移植が普及していない、と言及していますが、未だ「腹膜透析」を実施する施設が限られているという課題が存在しています。



「おうちで透析」では、在宅による「腹膜透析」を実施している病院リストを地域ごと掲載していますが、現在6施設にとどまっています。2025年をめぐりに、100施設へ「腹膜透析」療法の導入することを目指します。これには全国の病院やクリニックに加えて、介護施設などと連携し、地域包括ケアシステムの構築を図るために、同療法の導入や普及を支援する施設の拡充に注力します。

「おうちで透析」は、今後、通院が難しい透析患者がますます増える社会を想定し「腹膜透析」関連の情報を中心に、腎臓病、透析、健康情報を提供します。ウェブサイトや公式動画チャンネル（ユーチューブ）にて定期的に情報を発信し、また、SNSを通じて質問コーナーや情報交流へも行っています。さらに、情報交流を活性化させ、医療提供者と患者間の「情報格差」を縮める役割を担います。

【一般社団法人リンクアについて】

会社名 : 一般社団法人リンクア <https://linqua.jp/>  
 本社所在地 : 東京都目黒区自由が丘 1-13-4 シャイン自由が丘ビル 4F  
 代表理事 : 市川 匠 (いちかわ・たくみ)  
 設立 : 2019年4月  
 事業内容 : 医療情報提供サービス

【本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先】

担当 : 上田 メールアドレス : [info@linqua.jp](mailto:info@linqua.jp)